



世界遺産の夜 元興寺寄席



世界遺産元興寺の禅室(国宝)で
落語・講談をお届けします

寄席に参加される方は
国宝極楽堂の特別拝観ができます
(午後5時30分～午後6時)

露の紫 (落語)
旭堂 小南陵 (講談)
桂 米舞 (落語)
三味線: はやしや 都美礼

9/26(土)

笑福亭 純瓶 (落語)
旭堂 南龍 (講談)
笑福亭 生寿 (落語)
三味線: 佐々木 千華

9/27(日)

- 会場 世界遺産元興寺 国宝禅室 (奈良市中院町11番地)
- 時間 午後6時～7時30分 (開場 午後5時30分)
- 入場料 大人(中学生以上)2,000円・小学生1,000円
※小学2年生以下は入場不可
- 定員 各回150名
※奈良市ホームページのお申し込みフォームからお申し込みください。
(<https://www.city.nara.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=1016>)

《 残席がある場合は予約なしで入場できます。
当日は午後5時30分～6時の間に会場にお越しください。 》

※順不同 出演者が都合によって
変更になることがあります。

お申し込みフォーム



- 入場料は当日お支払いください。(現金のみ)
- 携帯電話の利用マナーにご協力ください。

【お問い合わせ】 奈良市 観光戦略課 ☎ 0742-34-5609 受付時間: 平日9:00～17:00

主催: 奈良市

後援: 歴史街道推進協議会



歴史街道
RENSHI KADO

詳しくはこちら▼

元興寺寄席 🔍 検索

令和
八年

世界遺産の夜 元興寺寄席 出演者のご案内 (順不同)

9/26(土)

露の紫 (つゆの むらさき)



リポーターとしての話術の勉強に天満天神繁昌亭「落語家入門講座」3期生として入塾。2008年「ふくい女性落語大会」で知事賞受賞。その後、露の都に入門、プロの落語家に。「暮らしにもっと笑いを〜笑いの健康法〜」「落語も安全も一歩先読む余裕から」などテーマは多岐にわたる。

〈三味線〉

はやしや 都美礼 (はやしや つみれ)



〈講談師〉旭堂 小南陵 (きょくどう こなんりょう)



2001年、旭堂小南陵 (四代目旭堂南陵) に入門。OL、俳優を経て講談師に。2015年、第70回文化庁芸術祭新人賞受賞。2016年、八尾市文化新人賞受賞。2016年11月、五代目旭堂小南陵襲名。2019年、大阪市此花区に講談中心の演芸場「此花千鳥亭」オープン。2020年、大阪文化祭奨励賞受賞。

〈落語家〉桂 米舞 (かつら まいまい)



2022年2月、五代目桂米園治に入門。同年6月、桂米朝落語研究会 (京都・金比羅会館) にて初舞台。2025年1月、年季明け。舞台/2023年5〜6月、新歌舞伎座〜御園座「五月薫風特別公演 伊之吉の千両茶碗」。趣味/可愛い服集め、観劇。特技/粘土細工。明るく楽しく、皆様に笑顔をお届けできる噺家を目指します!

9/27(日)

〈落語家〉笑福亭 純瓶 (しょうふくてい じゅんぺい)



1984年、笑福亭鶴瓶に入門の三番弟子。古典、新作はもちろん、怪談ライブや、「奈良町落語ふえすていばる」など落語関係の企画運営などもこなすマルチ落語家。「元興寺寄席」にはレギュラー出演! 主な会は「春鹿寄席」「土曜でいたいむ寄席」「ほろよい寄席」「豊中芸人倶楽部」「ゑびす寄席」「神農寄席」

〈三味線〉

佐々木 千華 (ささき ちか)



〈講談師〉旭堂 南龍 (きょくどう なんりゅう)



2004年、旭堂南左衛門に入門し南青となる。2014年、フランスパリ日本文化会館において、フランス語南京玉簾で好評を得る。2018年、奈良テレビ放送「ゆうドキッ!」の企画で3年間かけて「奈良検定2級・1級・最上級ソムリエ」を獲得、奈良市観光大使。同年、真打に昇進し旭堂南龍を襲名。2019年、咲くやこの花賞大衆芸能部門を受賞。「ゆうドキッ!」火曜日レギュラー。

〈落語家〉笑福亭 生寿 (しょうふくてい せいじゅ)



2007年、笑福亭生喬に入門。同年、「茶白山でまるかじり」にて初舞台。古典落語を初演する「笑福亭生寿新ネタ発表会」、笑福亭一門の若手会「たけくらべの会」、東京の立川らく次師匠と「宝塚を語る落語会 ズカメンズ!!」、また天満天神繁昌亭でも年に1度自身の会を開催。奈良市観光大使。

世界遺産・元興寺「禅室」



元興寺は、蘇我馬子が建立した日本最古の本格寺院「飛鳥寺」を前身とする由緒ある寺院です。

かつては現在の猿沢池南側、ならまち一帯に及ぶ広大な境内を誇りましたが、時代の変遷とともに姿を変え、現在は「世界遺産 元興寺」「華嚴宗 元興寺 (塔跡)」「元興寺 小塔院」の三つの寺院に分かれてその歴史を継承しています。

世界遺産・国宝の「禅室」は、かつて僧侶の生活空間である「僧房」として使用されてきた建物で、奈良時代の建築様式を今に伝える極めて貴重な建物です。特筆すべきは屋根の一部に残る「飛鳥時代の瓦」で、千四百年以上もの間、現役で建物を守り続けている姿は圧巻の一言に尽きます。



近鉄奈良駅から徒歩約15分
JR奈良駅から徒歩約20分/JR京終駅から徒歩約15分
田中町 (ならまち南口) バス停から徒歩約5分

※境内には駐車スペースはありません。お車の場合は周辺の駐車場をご利用ください。

ご注意

- 履き物を脱いで、畳の上に座っての鑑賞となります。
- 壁や畳を傷つける可能性のあるものはお持ち込みいただけません。
- 境内は全面禁煙です。
- 境内での飲食は原則禁止です。
※熱中症予防の観点から、水分補給のための飲料はふたつきのペットボトルもしくは水筒類に限り持ち込み可能です。
- 禅室内には冷暖房設備がございません。